

人文研紀要

第53号～第55号(2005年)

◆第53号—2005年(2005年10月発行 A5版351頁)

Die Juden als Pest—Politisch-rechtliche Rahmenbedingungen der Pestpogrome	Uwe MAKINO
Lion Feuchtwangers Roman “Jud Süß” in der deutsch-jüdischen Diskussion im ersten Viertel des 20. Jahrhunderts(1)	Mamiko IKENAGA
戦争法と戦争犯罪に関する覚書	白根澤 正士
ウィーン民衆劇と『ドナウ横断の夢』1	新井 裕
Soziale Stratifikation im Werk von Leon Battista Alberti(1407-1472)	Hans Joachim DETHLEFS
大地の神話—メソポタミア—	金光 仁三郎
『馬銜のない牝驃馬』と民話の国際話型AT 325	渡邊 浩司
Une devineresse musulmane et sa prophétie sur l'invasion chrétienne en Palestine dans l'histoire poétique de la croisade(1)	Naoyuki OGAWA
De la vieja vía al “enlace nuevo” trazado por Santo Domingo de la Calzada en el Camino Jacobeo y morfología del asentamiento a que da origen	Oscar Javier MENDOZA GARCIA
『エルチェの聖母被昇天劇(Misteri d'Elx)』の空中舞台装置の一考察	仮屋 浩子
直接話法としての身ぶり —ニクラウス・マヌエルの「死の舞踏」表現について—	鈴木 桂子
イスカリオテのユダ —福音書から後期中世聖書劇へ—	土肥 由美

◆第54号—2005年(2005年10月発行 A5版330頁)

語学力が専門知識と融合するプロセス —欧州の会議通訳教育に見る事例—	吉村 謙輔
Dictionarium Britannicum の改訂と『ジョンソン辞典』について	市川 泰男
『素敵な歌と舟はゆく』と『月曜日に乾杯！』 —オタル・イオセリアーニの詩学—	伊藤 洋司
オールダス・ハックスレーの「対位法」	深澤 俊
<ルソーにおける自由の言説>のためのエスキース	永見 文雄
シャルル・ペギーの恋	菅野 賢治
A.W.シュレーゲルのシェイクスピア批評	上坪 正徳
藤村の「小諸なる古城のほとり」とテニソンの「角笛の歌」	岡地 嶺
“Home breeds safety, / Dangers begot in court”: Early Jacobean Lucrece in Context	Ikuko KOMETANI
ローベルト・ムージルと比喻	早坂 七緒
Wundenmal der Welt—Der “Schmetterling” von Nelly Sachs als apokalyptisches Gedicht	Hiroshi TOMITA

◆第55号—2005年(2005年10月発行 A5版315頁)

『遠野物語』の手帖	田野崎 昭夫
ある一点	中村 昇
初めに何があったのかを言うのは困難である —ダニエル・デネットの哲学における記憶の問題をめぐって—	渡辺 博
作動記憶における視覚的リハーサルに対する無関連絵画刺激の 妨害効果の検討 —明度再認課題に対するグラデーション刺激の妨害効果から—	須藤 智 兵藤 宗吉
Fulfilling Their Heaven Appointed Missions :Emperor Meiji and Queen Victoria	Robert MORTON
16,17世紀ポルトガルのインド航路における宗教行事	小磯 京子
占領軍とカトリック教会	今 まど子
幣原喜重郎と戦後政治	服部 龍二
坪内逍遙による本間久雄宛書簡について —年未詳書簡を中心に—	平田 耀子
『柏垣瑣志』の世界 —清末地方司法と署理按察使継昌—	高遠 拓児
北周徒何綸墓誌銘と隋李椿墓誌銘 —西魏北周支配階層の出自に関する新史料—	前島 佳孝
「正統殉難」異聞(一) —英宗回鑾後のモンゴル残留明人について	川越 泰博